

令和3年5月12日

No.58号

山形市立第四小学校
校長 日高 伸哉

<児童数 196名>

TEL 623-6019

～5/11(火)全校朝会・校長講話から～

“デジタルとアナログ”

第四小丸、全速前進中！

いちよう大運動会に向けて、各学年、各学級が、コロナ感染対策をしっかりとしながら取り組んでいます。「できない理由を探すのではなく、できる工夫を探す」を合い言葉に、団体種目（上学年・下学年、そして全校種目）や応援合戦の工夫に取り組んでいます。限られた時間の中で、物理的な3密を避けながら、思考の密度を濃くして取り組んでいます。そのような中、成長のヒントになる「見方・考え方」を、全校朝会・校長講話にて話したところです。以下、その内容です。

おはようございます。

いちよう大運動会に向けて、みなさんよく頑張ってきましたね。いよいよ今週の土曜日ですね。なんかワクワクします。そんな中、心温まる励ましのお便り（祝電）が届きました。紹介します。

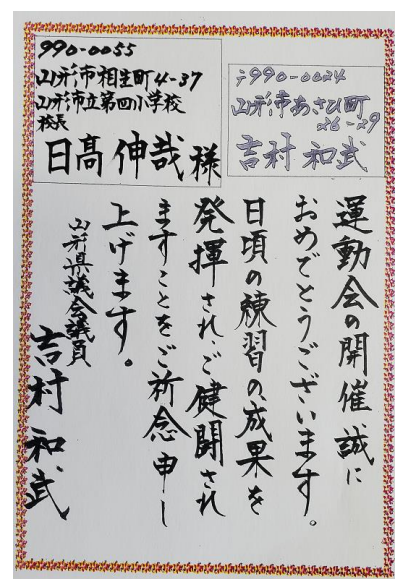
【運動会の開催、誠におめでとうございます。日頃の練習の成果を発揮され、ご健闘されますことをご祈念申し上げます。】山形県議会の吉村和武議員さんからです。うれしいですね。元気がわいてきますね。このコロナ禍の中、私たち第四小や「いちようの子」のことを見守ってくださっている、その思いと優しさ・あたたかさに、しっかりと応えてゆきたいですね。健康に留意しながら、頑張ってください。

今年のスローガンは、「勝利のゴールに向かって走りきれ 限界突破！！」です。

走りきれ。この「きれ」という二文字に、最後までねばり強く、そういう意思が感じられます。しかも「限界突破！！」ですから、前に前に、上に上に、次へ次へその次へという前向きな姿勢が伝わってきます。素晴らしいスローガンです。

スローガンを達成するためのヒントにつながるお話をしてみます。

テーマは「デジタルとアナログ」です。



みなさんは「デジタルとかアナログ」という言葉を聞いたことがありますか。

「デジタル」と聞いてイメージするのは、数字で時刻が表される時計などでしょうか。実は、時計そのものやその時刻を「デジタル」というのではなく、時刻を表している数字の「0、1、2、3・・・」というような「飛び飛びの値しかない量」のことを「デジタル」と言います。0と1の間に何も無い、1と2の間にも何も無い、そう言う「飛び飛び」の量です。したがって、つながっていない、ぼつぼつ切れている量になります。

その反対に、「アナログ」というのは、つながっている量のことです。温度計を思い浮かべてください。温度は少しずつ上がったり下がったりしますね。つながって上がったり下がったりします。そう言う量のことを「アナログ」と言います。もう一つ例にしてみましょう。コップに水を入れていくと少しずつ増えていきますよね。つながって増えていきます。ですから、水の量も「アナログ」です。0と1の間が切れずにぎっしりつまってつながっています。1と2の間も切れずにぎっしりつまってつながっています。そういうイメージです。

どちらも大切な量ですし、どちらも、ものを見る時の大事な見方・考え方です。

ここで、私たちの学校での暮らし、今取り組んでいる「いちよう大運動会」のことを考えてみましょう。「できた・できない」とか「走る・走らない」「好き・嫌い」というように、単純に「1か0か」のデジタルで決めてしまうのか、それとも「1まで行かないけれど0ではなく、半分より少してきたよ」とか「大好きまではいかないけど90%くらい好き、もう少しこうなると大好きになれそう」とかというようなつながりを意識したアナログで考えるのか、大きな分かれ道になると、校長先生は考えています。私たちの成長は、決して「デジタル」ではありません。つながって、つながって、少しずつ、少しずつ成長・発達していきます。ですから、自分を見つめる時、単純に「0か1」のデジタルの世界で見るのではなく、つながって少しずつ成長している、かけがえのない存在として「アナログ」的に見てほしいのです。自分をそう見られれば、友だちも、かけがえのない存在として「アナログ」的に見えてきます。ここが大切です。まず自分をしっかり見つめる。そして、その見方で、友だちを見つめていく。そうすれば、よりよいくらしが生まれてきます。そんな「いちよう大運動会」になってほしいですし、そう言う一年間になってほしいと願います。少し、難しいお話になりました。わからない所は、担任の先生に尋ねてみてください。もちろん、校長室（キャプテンルーム）を訪ねてくれてもいいですよ。お話を終わります。

